

横浜市小学校社会科研究会

6学年部会

研修会記録

第2号

令和元年 7月3日

横浜市小学校教育研究会

会長 榮 秀 之

横浜市小学校社会科研究会

会長 新 井 篤 志

同 学年部長 杉 本 敬 之

【提案日時】

6月5日（水）

講師 澤井 陽介先生

（国土舘大学 体育学部 こどもスポーツ教育学科 教授）

【会 場】

横浜市立稲荷台小学校

講師 若色 昌孝 先生（杉田小学校 校長）

提案 田村 拓之 先生（稲荷台小）

司会 本間 宏志 先生（末吉小）

記録 田澤 哲哉 先生（西が岡小）

提案内容

单元名「わたしたちの暮らしを支える政治～移動支援型バスの取組をおいかけて～」

自評視点① 子どもの予想と見通しから創り上げる学習計画をもとにした单元づくり

公民の憲法のところでは学習計画を立てることはできなかった。国民の三大義務についての学習の中で、子どもたちは税金がどのように使われているのかに興味をもち、社会保障に多く使われている事実から、おでかけ3について知った。おでかけ3の取組に行政がどのように関わっているのか、おでかけ3によって高齢者の生活が便利になっていることを追究できるような单元計画を考えた。

視点② 本気の学習問題を追究し、社会的事象の意味に迫る授業づくり

所長であるAさんの「限界」という言葉から、行政の関わりによっていける本時になるとよかった。

全体質疑（○…質問 ・…返答）○学習問題について（主語は誰なのか、計画と変わった理由はなぜか）

⇒ 「どうしておでかけ3は、本格実施に踏み込んだのだろうか」

- ・主語は社会福祉法人。計画と変わったのは、実施されなかったハマちゃんバスと実施されたおでかけ3の比較を通して、子どもがそこに疑問をもったから。

グループ討議

【概念的知識について】

- ・具体的な事実を抽象化していくことが、概念的知識の獲得と言えるのではないか。

【学習計画と子どもの様子について】

- ・経験にもとづいた学習になっていて、子どもたちが調査をもとに根拠をもっておでかけ3のよさを語る事ができていた。

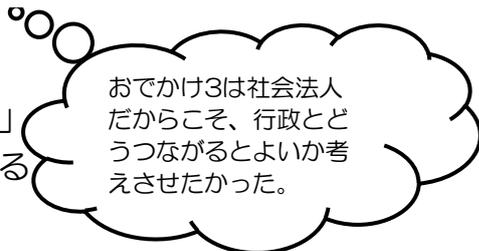
【学習問題について】

- ・実施するにあたっての運営側の葛藤が分かるような具体的な資料があれば、子どもがより本気になり、行政の協力という出口にも向かうことができたのではないかと。また、子どもがイメージする行政の協力と、教師が伝えたいことにズレはなかったのか。

田村先生がイメージしていた単元の出口

全体協議 …行政に目を向けるには…

- ・国と市の協力を迫るのが難しかった。
- ・「車の数も増やしたいとは思っているんだけど…でも…」このあたりの発言から葛藤にせまって、問題に目を向けることができたのではないかと。



指導講評

(若色先生より)

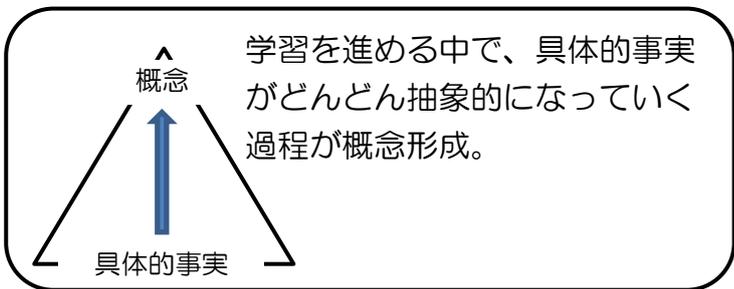
- ・行政主体のハマちゃんバスから、地域主体のおでかけ3に進んでいく学習計画であったため、子どもたちの気持ちは行政からはなれていってしまうのではないかと。
- ・おでかけ3はハマちゃんバスよりも乗車数が少なく、料金も30円と安い事実から、どのように運行しているのかという視点で見ていくこともできたのではないかと。
- ・公民単元では「主権者としての人」、まかせっきりにならない子どもを育てたい。政治単元から歴史単元にどのように入っていくのか、検討を重ねる必要がある。

(澤井先生より)

- ・この単元では、社会保障でも災害復旧でもいいから、最後は政治の働きにおとすことが必要。地域参画という視点で、おでかけ3は教材としての価値がある。

(政治の働き—事例(社会保障or災害復旧)—政治の働き) ←社会のしくみが見えること

- ・概念的知識とは、社会的事象の特色や意味などを説明するための知識。
- ・対話型の学習の形として、問題に対してグループで結論を出す時間を設けて、結論を出すまでのプロセスを共有する形もある。



<学年部長より>

<役員より>

<世話人校長先生のお話>

おでかけ3のよさを子どもたちがよく語っていた。行政とどのようにからめていくかが課題。

(鵜飼校長先生より)